アジア経済の原動力地域 韓国・京畿道（キョンギド）

～国内外グローバル企業の集積地～

京畿道（キョンギド）にはサムスン、LG、現代・起亜といった韓国を代表するグローバル企業が立地し、多様な産業集積を形成している。半導体、ディスプレー、自動車といった基幹産業だけではなく、再生可能エネルギーなどの成長分野の研究開発も活発化している。“ハイテク産業の揺りかご”として韓国の製造業の30%を占めている経済の中心地で、日系企業をはじめ、欧米企業の進出も相次いでいる。京畿道の金文洙知事に、進出企業への支援などについて日刊工業新聞社の井水治博社長が聞いた。

韓国・京畿道　知事　**金 文洙氏**

理想的な交通インフラ

井水　京畿道には韓国を代表する企業が立地していますね。

金　サムスンの半導体ＩＴクラスター、ＬＧの坡州（パジュ）ディスプレークラスター、現代・起亜の自動車クラスターを有しています。坡州クラスターは面積450万平方㍍に、大企業をはじめとする30社以上の協力会社が集積し、材料、部品から完成製品までを生産しています。世界最大の先端ディスプレー産業団地です。またサムスン電子は100兆ウォンを投じ、面積395万平方㍍の平沢（ピョンテク）古徳産業団地に次世代半導体や太陽電池などの生産施設を整備しています。

井水　いずれも大規模ですね。京畿道は首都のソウルと隣接し、物流インフラが整っていることが、投資を喚起していますね。

金　仁川（インチョン）、金浦（キンポ）の２つの国際空港、平沢、仁川の国際港湾、11の高速道路と６つの鉄道で物流網を構築しています。仁川国際空港は国際貨物量245万㌧（2012年）で、航空会社87社が世界176都市に運航しています。またＡＩＣ（国際空港競技会）の顧客満足度評価で05−12年の８年連続で世界１位でした。仁川港はコンテナ貨物量198万1,000ＴＥＵ（12年）、平沢港は同51万6,000ＴＥＵ（同）です。特に鉄道は16年に首都圏広域急行鉄道「ＧＴＸ」が運行される予定です。平均時速100㌔㍍で、ソウルと京畿道の主要都市間が15−30分で結ばれます。

多面的な経営支援施策

井水　平沢地域には外国人投資企業専用の賃貸産業団地が集積していますね。

日刊工業新聞社
社長　**井水 治博**

金　現在、外国人投資企業専用の賃貸産業団地は８カ所を運営しており、５産業団地が平沢地域にあります。このうち玄谷（ヒョンゴク）産業団地には三井金属、旭化成などの日本企業も立地しています。賃貸団地として立地の条件が優れているため、外国人投資企業から人気が高く、どの産業団地も入居が相次いでおります。

新たに造成した梧城（オソン）産業団地は大規模な拠点を立地する余地があります。

井水　個別型外国人投資地域もありますね。

金　企業の特性を考慮し、敷地の選定と購入、工場着工の許認可などの行政手続きを積極的に支援しています。指定基準は製造業が投資金額3,000万㌦以上、研究開発業（Ｒ＆Ｄ）が同500万㌦以上、修士10人以上雇用です。法人税、所得税を外国人投資企業専用の賃貸産業団地で５年間（３年間100%、２年間50%）、個別型外国人投資地域で７年間（５年間100%、２年間50%）減免に加え、取得税、財産税を15年間（個別型外国人投資地域の取得税は７年間）減免などのインセンティブを付与しています。

井水　有効なインセンティブですね。ただ進出企業は現地での経営に不安があります。

金　そうですね。進出企業の不安を解消し、円滑に業務を始められるように複数の経営支援策を用意しています。まず京畿中小企業支援センター内に外国人投資企業支援センターを置いています。進出企業の相談を受け付けているほか、経営に必要な情報を提供しています。また法務、会計・税務、労務、雇用、金融などの６分野の民間専門法人を通じて、企業の経営業務の相談を支援しております。また、法定義務教育や実務教育など企業が必要とする多様な教育課程を運営したり、進出企業の従業員やその家族を対象に生活・文化情報、各種の法律及び施策の案内のためのメールマガジンも発送しております。

井水　進出企業にとっては現地従業員の確保も課題です。

金　京畿道内の地域雇用センターや大学と連携して支援しているほか、産業団地の近隣の住民の採用も後押ししています。また京畿道内には82の大学・大学院が立地しています。韓国の大学進学率は約７割で、人口の約４割が大学レベル以上の教育を履修している計算です。若者が多いため、優秀な人材を獲得できると思います。

地域特性を活かした産業団地を形成

井水　企業、大学、研究開発機関の地域資源を生かし、先端技術の研究開発クラスターを形成していますね。

金　京畿道内には研究開発組織が6,975組織、企業研究所が6,840研究所もあり、世界的にも革新的なクラスターを誇っています。板橋（パンギョ）テクノバレーはソフトウェア産業クラスターで、ＩＴ関連企業やゲーム会社など約600社が入居しています。広橋（クァンギョ）テクノバレーはハイテク産業のハブになっています。次世代融合技術院、韓国ナノ技術院、京畿道科学技術振興院のほか、サムスンも研究開発拠点を置いています。東灘（トンタン）テクノバレーは半径10㌔㍍圏内にサムスン、現代・起亜、ＬＧ電子などが立地しており、国内外の協力会社780社超が活動している国内最大規模の産業クラスターです。

井水　日韓の共同研究の場としても適していると思います。また各地でユニークな街づくりも推し進めていますね。

金　始華（シファ）は先端知識基盤産業を中心にした環境に優しい複合都市で、先端・ベンチャー企業などが立地してマルチ・テクノバレー（ＭＴＶ）を形成しています。また果川（クァチョン）は知識情報産業を基盤にした文化・教育都市を目指した知識情報タウンで、デジタルコンテンツ、ＩＴ製造業分野の研究開発拠点などが集まっています。さらに漢江（ハンガン）は映像・文化コンテンツを中心にした複合産業都市です。

日韓企業技術交流の促進へ

井水　日本は中小企業のすそ野が広く、高い技術力を持っています。一方、韓国は中小企業の層が薄いように感じます。

日韓の中小企業の技術交流を促進することにより、韓国製造業の構造がより強くなると思います。

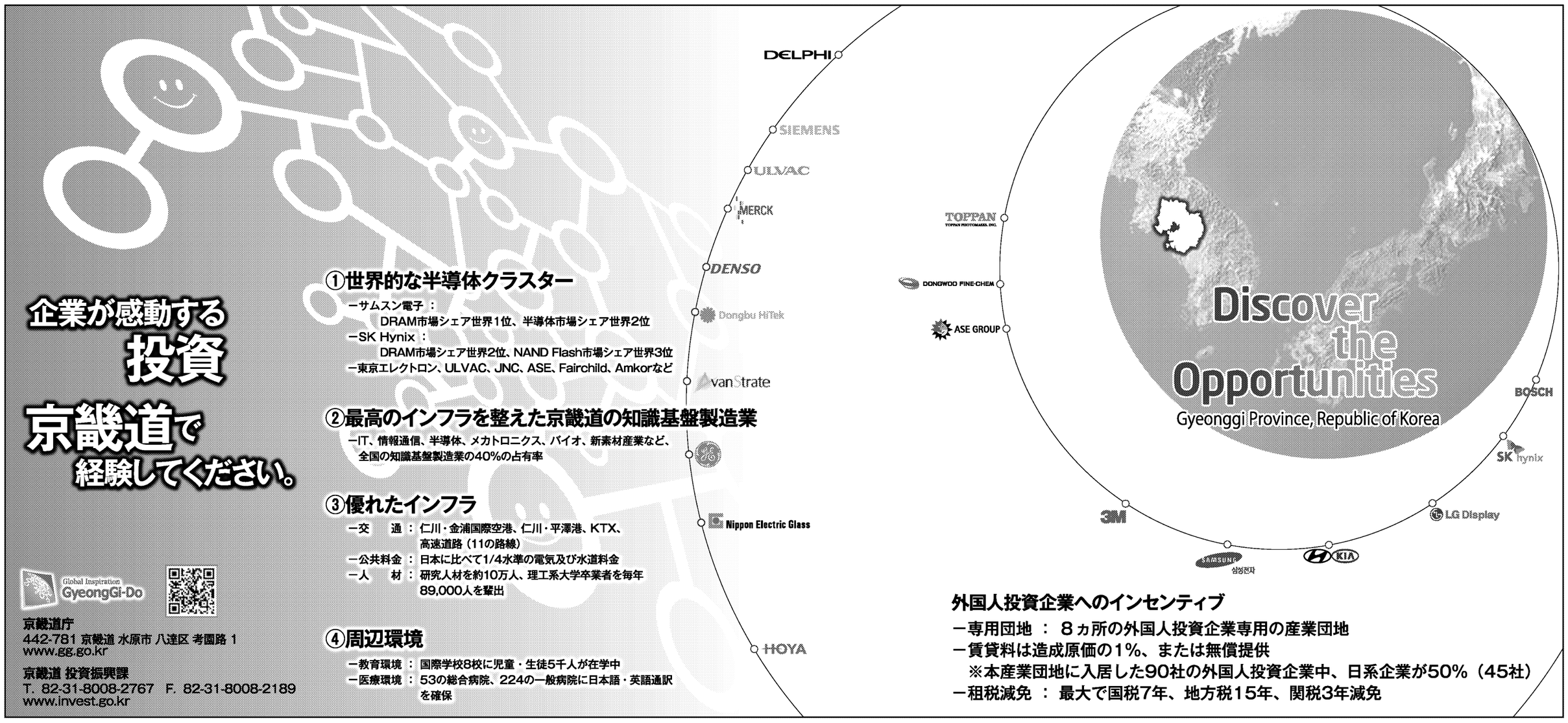
金　その通りです。京畿道には韓国の中小企業の３分の１以上が立地していることもあり、もっと交流を活発化しなければならないと思っています。しかし、韓国の中小企業は日本企業と交流したくても日本語ができない。日本についてわからないことも多いのが実情です。

井水　言葉の壁を乗り越えるには、優秀な人材を獲得することが課題になりますね。

金　韓国の中小企業では日本の大企業ＯＢらを技術顧問として迎えるケースが増えています。ある企業の社長に聞いたら「やはり日本人の顧問は実力があり、誠実に仕事に取り組んでくれる」と高く評価していました。大企業ＯＢらが韓国の中小企業に目を向けてくれたら、大きな力になると思います。

井水　企業誘致のためには、京畿道の良さを日本企業にもっと知ってもらう必要がありますね。

金　もちろんアピールしていますが、やはり経営者の口コミが重要だと思っています。進出している日本企業の関係者らが「便利でいいところだよ」と。こうした口コミが立地選定の最終判断の決め手になります。

井水　その点、たくさんの日本企業が進出しているので、口コミが広がりそうですね。京畿道は成長のポテンシャルを秘めているだけに、日本企業だけではなく、欧米企業の進出がこれからも相次ぎそうです。本日はありがとうございました。

金　ありがとうございました。